本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

発行所
全国婦人新聞社
〒160 東京都新宿区西新宿3-7-28 宝幸西新宿ビル
電話 03(3343)1846代
FAX 03(3348)1890
振替口座 00150-7-172320

全国婦人新聞

ご購読料
1年 6,000円
（郵送料1,700円を含む）
現金・切手・振替で前納
月3回発行
10日・20日・30日

自然の色と味を生かすうすくち
東 ヒガシマル醤油
うすくち醤油発祥の地＞兵庫県龍野市 ヒガシマル醤油株式会社

女性に対する暴力の根絶を！

DV防止法など抜本策を
政府は早く実態の把握を

一九九三年六月、世界人権会議のウィーン宣言・行動計画で、女性に対する暴力の根絶が訴えられた。同年十二月国連総会は、「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」を採択。この九月、北京で行われる世界女性会議の行動綱領案の重大問題領域の一つに「女性に対する暴力」が上げられている。女性に対する暴力の問題についての取り組みは、日本では公的な調査は全くなく、北京会議に向けても国別報告書でも防止する法があるということしか書かれていない。ここへ来て、夫（恋人）からの女性に対する暴力の深刻な実態を示す民間の調査が出はじめた。政府は一刻も早く実態の把握に乗り出すべきだろう。

（関係記事2面）

DV調査研究会の最終報告書

報告会会場は補助椅子を出してもたりないほどの参加者であふれた

「DV（ドメスティック・バイオレンス＝夫・恋人からの暴力）調査研究会」が一九九二年に行った夫や恋人からの暴力についての調査の最終報告書がまとまり、一日、東京都女性情報センターで報告集会が開かれた。

この集会への関心は高く、会場は参加者（ほとんど女性）であふれた。

同集会の第一部は調査の報告。同調査は夫から妻への暴力が、全く社会問題になっていないころ、女性が受けている暴力の実態を明らかにし、沈黙してきた被害者に発言の場を提供することを意図して行われた。女性団体等を通して、四千六百七十五票配布。八百七票回収、有効回答七百九十六票。

この結果、夫からの暴力は貧富、学歴、社会的地位、職業などに関係なく起こっていること。暴力の被害を受けた人のうち、離婚した人が四割いるが、五割はまだ同居しておりその三割はまだ暴力が続いていることがわかった。また、四分の一が誰にも相談していない（相談する人がいない、恥ずかしい等）のも、問題の深刻さを物語る。

七百九十六人の回答者中身体的暴力を受けた人が四百六十七人。殴られた（85・2％）、蹴られた（67・5％）が多いが、熱湯をかけられた（4人）、車でひき殺されそうになった（3人）、階段からつき落された（2人）など生命の危険のある例もあり、聴力や視力が低下した人もいる。三分の一がケガをし、医者に行った人も多いが、恥ずかしくて転んだなどウソをついている。暴力の原因は些細なことで、何か言い返すと殴る、だまっていても怒り、謝ってもダメなど。「共働きで家事全部を妻がし子のそばで添寝しているうち疲れて寝てしまったところ、夫より早く寝たと殴られた」「風呂にたまたま娘を先に入れたら、女が先に入るとは、と殴った」など信じられないようなケースもある。

心理的暴力もある（五百二十三人）。バカにされ、ののしられ「誰に食わせてもらっているか」など言う。直接手を出さないが食卓をひっくり返すが百八十三人と多い。恐れ、相手の顔色をうかがいつづけるうち、自分に自信をなくし、鬱状態になり、自殺を試みる人も。「人間、あまり辛抱すると消極的になる。別れたいと思いながら三十五年すごした人もいると」。

性的暴力（四百七十三人）も見のがせない。不本意なセックスがもっとも多く（81・4％）、他の家族がいる前でセックス強要（40・2％）、中には出産後の出血がつづいているのに力づくでセックスされた例もある。避妊に協力せず（30・2％）、むりやり中絶させられた（16・3％）も見逃せない。「今まで、女が勝手に中絶すると思われていたが、その前に夫婦の関係があるということがこの調査でわかった」。

報告のあとは、「いま日本で必要なこと」の提言。日本の法的対応の現状を戒能民江さん（東邦学園短大・法女性学）から。かけこめる避難所がなく、唯一の公的避難所の「婦人相談所」は売防法対応の婦人保護事業という枠組みがあり、実際の対応の限界がある。警察は民事不介入主義、110番しても現場に来ない、個人の家庭のことと相手にしない。家裁の調停委員等も〝男とはそういうもの〟、と暴力容認の風土がある、と現状を報告。

ついで角田由紀子さん（弁護士）が法律面からの提言。現行法内でも、夫（恋人）からの暴力を正当に犯罪として認めさせること、警察官や家裁調停員に研修をさせること、シェルター（避難所）や相談機関を増設させること等はできる。さらに「DV防止法」といった新しい法を作り、加害者への教育プログラムを作ること、など防止策を提案。そして、「より根本的な解決のためには、女性差別の土壌――女性の低賃金を是正し、教育の中で性差別、暴力の禁止を植えつけなければダメ」と結んだ。

最後に波田あい子さん（都精神医学総合研究所研究員）が、「当事者グループが運動主体となり、民間グループで小規模シェルターを作ろう。民間の動きで運動を喚起しよう」と訴えた。

このあと会場から文書で数多くの質問や意見があいついだ。

なお、この報告書の購入希望者は、〒160新宿区三栄町九 三冬社気付 DV調査研究会 頒価千円＋送料二百七十円を現金書留で。

夫からの暴力問題
世界女性会議の重大問題の一つ

殴る蹴る、骨折も…
公的機関への避難は五％

新日本婦人の会の調査結果から

昨年九月から十二月にかけて、新日本婦人の会（井上美代会長）では、「夫から妻への暴力について」の調査を実施した。

回答者は百二十六人（本人からの回答は五一・一％、知人・友人二一・四％、姉五・六％）。

調査の結果では、被害を受けている女性は、四、五十歳代、婚姻年数は二十年から三十年代が最も多い。

暴力を受けてきた期間も長く約半数近くが十年以上。七割以上がけがをし、約四割が医者にかかっている。

避難先は友人・知人宅、実家で、公的機関への避難は五％に満たない。解決策として離婚したい人は四三・二％。ほとんどの人（九二・一％）に子どもがおり、六割強が有職者ということが明らかになった。一方暴力を振るう夫の職業のランキング・スリーは会社員（四七・七％）、自営業（二四・六％）、公務員（八・七％）。飲酒との関係は、飲んでいる時が三八・一％と最も多いが、飲んでいてもいなくても振るうが三二・五％、飲んでいない二六・二％を見ると、飲酒が直接原因にはなっていないことなどがわかる。

暴力を振るう原因で多いのが、「（夫の）気にいらない時」（六八・三％）、次いで「口論になった時」（三三・三％）。中には「常に暴力的」（七・九％）な人もいる。

暴力の内容は深刻で、言葉の暴力のほか、「座卓をひっくり返し、殴りつけ家中の物を壊す」「革のバッグを破り、電話を壊し、壁に穴があくほど物を投げつけ、髪を持って引きずる、蹴る」「包丁を持って殺すと追いかけ、娘の胸にも包丁を突き付け脅す」。「熱湯が入ったポットを投げつけ、腕・胸に火傷」「おおそとがりで投げられ気絶、頭を床に打ちつけられ頭蓋骨折」なども。

暴力が家族に与える影響も大きい。「子どもや家族のいるところで暴力を振るう」と答えた人が七〇・六％おり、父親を怖がったりおびえたりするほか、「母親や回りの人間に対して暴力的になる」「子どもが大きくなって弱い立場の者に暴力を振るっても許されると思っている」「力によって人を押さえられると思っている」。

「暴力を受け、警察に通報した」（九・五％）が、「取り合ってくれない」が一六・六％。

同会では、女性に対する暴力の実態を調査し、社会的に明らかにすること。学校教育、公的なカウンセリング制度、シェルターの充実、離婚を望む女性の自立を支える公的補助、住居、職業訓練など公私にわたる援助が急務と言っている。

●暴力の頻度
年数回 42.9
月1回程度 12.7
週に数回 15.0
毎日 0.8
※その他 23.0
無回答 5.6
（%）

[暴力をふるうときとその要因について]
●どんなときに暴力をふるうか
（%）
気に入らないとき 68.3
口論 33.3
常に暴力的 7.9
思いあたらない 10.3
その他 9.5
不明 4.8

深刻な実態示す二つの民間調査

海外通信　アメリカ サンタフェ＝③浅葉和子

プエブロ・インディアンと共に
雄大な自然の日の出
アナサジの遺跡を訪ねて

ホピインディアンの地、セカンド・メサから車で北へ約三時間、ナバホ・リザベーション（居留地）の一角にあるモニュメントバレーに着いた。三六〇度、見渡す限りの褐色の大地、夕暮れのはるか彼方に、突然ニョキニョキと不思議なモニュメントのようなシルエットが見える。恐竜が出てきても不思議ではないダイナミックな景色だ。その広大なモニュメントバレーの谷間に今もなお約三十数人のナバホインディアン達が住んでいる。羊を飼い、織物を織って、自給自足の生活をしている。もちろん電気も水道もない。

数年前、テレビのインタビューが、一人暮らしのおばあさんにこんな質問をしたのを覚えている。「たまには、町に行きたいと思いませんか？」すると、おばさんは「何で町なんかに行く必要があるのかね、私はここがいちばん好き、この雄大な自然と共に生きるのが私の幸せ」と即座に答えたのを記憶している。

モニュメントバレーでの日の出は見事だ。暗闇の東の空にかすかな桑色の光がにじみ、西に金色の半月がこぼれ落ちそうな光を放つ。夜明けの明星と入れ違いに東の地平線に黄金の光輪が輝く。生命の誕生の瞬間を見るような祈りに近い感動を覚える。

ジュディの案内でインディアンの遺跡を求めて車は東へと進む。キャニオン・デ・シェイを通って、チャコー・キャニオンに着いた。この辺一帯は、「サウスウエスト」と呼ばれている地域でアリゾナ、ニューメキシコ、ユタ、コロラド、ネバダの五つの州のことをいう。そこに住んでいた古代人のことを「アナサジ」と呼び、プエブロ族の祖先にあたる。

プエブロ族の祖先は約九千年前にアメリカ大陸に初めて定住した先住民族といわれているが、チャコー・キャニオンは紀元後一一〇〇年頃から三百年くらい続いた遺跡といわれている。周囲を城壁のごとく、高い崖等でグルリと囲まれた広々とした草原、かつては六百以上の部屋と三十三のキバ（儀式用の部屋）があったという大きな遺跡で、豊かな自然の中で集団生活を営んでいた古代人の暮らしぶりが目に浮かぶ。その後二千年近い干ばつが続き、水を求めてリオグランデ川に沿って東に北にと移動していったのが現在のプエブロ族の人々の定住地である。プエブロとはスペイン語で「集落」を意味する。

現在プエブロ族は十九部族あり、サンタ・フェを中心に北プエブロと南プエブロに別れ、南プエブロに十一部族、人口約二万八千人、北プエブロに八部族、約五千人が暮らしている。アメリカインディアンの部族はかつては五百以上あったといわれているが、現在残っているのは三百十二部族、人口はアメリカの全人口・二億四千八百八十万人に対して、約百九十六万人の〇・八％。インディアン・リザベーション（居留地）は北米に大小二百八十くらいあるが、現在は半分以上の人達がリザベーションを出て各都市に移住している。

アナサジの遺跡を後にサンタ・フェの町に到着。真っ青な空にしっとりとした泥作りの古い建物、透明な陽差しにパステルカラーのよく似合う町並み。

早速ロサンゼルスの友人から紹介された、ビッキーの家を訪ねた。ネイティブアメリカンとの文化交流の話をすると、ビッキーの友人の一人が、ナンベアプロの彫刻家「クラウド・イーグル」の電話番号を渡してくれた。そこから私のプエブロの人々との交流はスタートすることになった。

（カット＝筆者）

「女性ニュース」に決定！

読者の皆さまからたくさん応募頂きました新聞の新タイトルは「女性ニュース」に決まりました。

いろいろ良いご提案があったのですが、すでに使われていたりで大変むずかしく、結局平凡ですが、幅広く、あきのこない「女性ニュース」に決定いたしました。実際にタイトルが変わるのは、第三種郵便物等の手続きがすんだ六月ごろになります。

なお、ご応募頂いた中からいくつかのご意見を組みあわせてこのタイトルを決めましたが、ぴったりのご意見の方はありませんでした。

全国婦人新聞社

たんぽぽ

北海道の読者には申しわけないが東京地方、春が来た。桜が満開である。この季節、通勤の道が楽しい。わが家のすぐそばの国立大学の付属小の裏庭。桜の花のトンネルをくぐって、駅に向かう。同じ染井吉野なのに、木によって少しずつ開花がちがうのが面白い▼駅の前の小学校の桜がまた見ごろ。通勤の最終コースは渋谷からのバスだが、NHK放送センター門の前の小さな小さな公園に実に見事な桜があって楽しい▼大地震にサリン。円高。警察庁長官狙撃。年のはじめから事件つづきの一九九五年だが、季節だけは律儀に巡り来る▼〝猫の額〟のわが家の庭も春らんまんだ。沈丁花はすでに終わり、れんぎょうがまっ盛りだ。私がさし木で増やしたものだが、昨年までは葉ばかりに花が数輪。育て主が悪いかと〝反省〟していたが、ことしは、黄色い花をいっぱいにつけて目を楽しませてくれる▼何年か前に、一株植えて、増えるのを楽しみにしていた蕗がようやく〝目標〟に近づいた。〝初摘り〟を小鍋で煮る。ほどよくほろ苦い。市販の蕗にないこの味がうれしい▼しかし、一番の感激は山椒だ。昨年の猛暑がこたえたのか、一時、葉が全部しおれ、もう枯れるかと思った。秋口にもち直したかのようにも見えたが、葉の落ちている冬の間心配で仕方なかった。今、ぴっしりと新芽を出している。ひとつまむと、えもいえぬ香り。ありがとうがんばったねと、幹をなでる▼新緑の五月、紅葉の秋、それぞれに美しいが、やはり春が一番好きだと思うのは、甦りの季節であり何かしら希望と幸せを感じるときだからだろうか。歳を重ねるごとに春を好ましく思い、この自然をこれ以上傷つけたくないと思う。

農文協
●内容見本呈
〒107 東京都港区赤坂7-6-1
☎03(3585)1141 各税込定価

●素材の風味を生かしてつくる―食べすぎても安心！●
減糖・減バター・自然派おやつ
江島雅歌著 A5判＊1350円
ケーキ・クッキー・パン・タルト・マフィンなど、自然の甘みと風味が活きるおかし作り。●イラスト満載・カラー口絵付
●自然派おかしの本／大好評！●
子育ておやつわたし流 奥薗壽子著 ＊1200円
自然流手づくり和菓子 坂本廣子著 ＊1300円
風味バツグン和風ケーキ&クッキー 奥薗壽子著 ＊1300円
ステップバイステップ子どものおやつ 北郁子編著 ＊1300円

●生き活き人生シンプルライフ！―魚柄仁之助第三作
うおつか流 生活リストラ術
―人一月九千円の食生活で一躍話題の魚柄氏が、今度は東京目黒区に住んで「2人一月12万円（家賃込み）の生活術を大公開／豊かで楽しいリストラ術の本／ ＊1300円
うおつか流 清貧の食卓 ―リストラ元祖の好評書／＊各1300円
台所リストラ術 ●からだによければ地球によい―楽しいリストラ術 ●一人一月九千円 実用的な台所・食事のリストラ術

●話題の本！●
暮らしが景色をつくる ●ニッポン型景観形成の源流 山・田・畑・川・池・海・集落と家・街…日本全国の暮らしが育てた景観を紹介。●現代農業増刊＊900円
いいお産がしたい 農文協編 ダンスを舞うように、女たちはお産をしてきた―少子化時代の多彩なお産の現場から「いいお産」を提言。●写真多＊1500円
簡素な食事の本 ●四季の味、いつもの味 千葉道子著 質素とはちがう洗練された簡単で素敵な「簡素」なおいしい食事の基本と応用百六十のレシピ！ ●巻頭カラー付＊1500円
あまとんさん ●小学上級～A5判・208頁 浜田糸衛作・高見真本絵 大正デモクラシーの高知…自然の中でおてんば「あまとんさん」が成長していく姿を描く自伝的童話。＊1600円
いのちを感じるあそび事典 ●したいさせたい、おもしろ実験200集 山田卓三文・トミタイチロー絵 朝顔を夜中に咲かせる？ザリガニ料理…動植物を素材に遊びながら科学の心を育てる実験集。＊1800円

福音館書店
発売中
タンタンの冒険旅行⑮ エルジェ作／川口恵子訳／64頁 定価1500円（税込）／小学中級から
ビーカー教授事件
50年後の今、ヒロシマを語り始めた人々がいた！
絵で読む 広島の原爆
那須正幹文／西村繁男絵 定価2500円（税込）／小学上級から
被爆50周年にあたり、著者が、市内全体の被爆状況や、原爆の原理、開発と投下にいたるまでの歴史的経緯、また被爆以後の広島までを克明に描いた作品です。
〒113 東京都文京区本駒込6-6-3 ☎03-3942-1226

"人間と性"を考える話題の総合情報誌
Human Sexuality
[ヒューマン・セクシュアリティ]
●編集長●村瀬幸浩●
●企画編集●"人間と性"教育研究協議会
●季刊 B5判・128頁●定価1600円（税込）
18号〈新刊〉〈特集〉育つものとしての「田性」そして「父性」
特集鼎談 いま、「田性」「父性」をとらえ直す
〈ゲスト〉松橋恵子・吉田義仁 〈司会〉原田瑞美子
特集論文「田性」と「父性」の「領土侵犯」を！…大橋由香子
特集ルポ「田性・父性」を問い直す
インタビュー・広岡智子＋柳沢直子＋山極寿一＋汐見稔幸＋伊藤公雄＋佐藤弘道＋古城十忍
取材・三井富美代＋草野いづみ＋清水久美＋木谷麦子
●サブ特集＝"引き裂かれた生と性"―戦後50年の現在①
論文 従軍慰安婦問題と今日の課題……川田文子
17号 家族―その将来の明暗を問う
16号 エイズ―共生・共存の展望をひらく
15号 女性の性的欲求と性行動
14号 10代の性と「純潔教育」を考える
13号 いま、あらためて人工妊娠中絶を問う
東山書房 ●定期購読・チラシのお申込みは下記へ
〒104 東京都中央区新川2-2-1-708 ☎03(3553)8358
〒615 京都市右京区山之内大町5-3 ☎075(841)9278

凱風社
老いて生きる 【編著】真実麻哉子 アルツハイマー症を患った妻と、その夫との二人三脚の闘病生活を描いた記録映画「おてんとうさまがほしい」を通して、老夫婦の愛の在り方、生き様、映画とは何かが明らかになっていく。●1080円
もう待てない 今こそ戦後補償を！ ●1200円 アリューシャンから南太平洋まで、アジア太平洋全域に広がる戦争被害者の証言と、被害者に連帯する研究者・弁護士・市民の声約三〇編を収録。
P-3Cをぶっとばせ 〈6月15日発売〉 P-3C〈対潜哨戒機〉送信基地建設の予定地・沖縄県本部町の住民と支援者は高圧的な防衛施設局に不屈の闘志をもって対峙した。土地と地域生活を守ろうとする八年間の記録と、地域住民の叫び。●1200円
112東京文京後楽2-22-12 税込価格
☎03-3815-7633 Fax03-3815-9510

歩みを振り返り問題点を考える

全国婦人新聞創刊四十五周年記念アンケート特集

座談会内容は、『ナイロビからBPWへ』（ドメス出版）から2000年に向けて、契約、職場、パートなどに、日本女性の強さ弱さを如実に表わしている。

昨年十月に行なわれた「国際会議女性2000」（88年）、言う役目に解説をしてもらうことになった。

1 男性を補佐する」と言う役目に解説をしてもらうことになった。

2 大だこ？ 凧じゃない。

3 ……

◇

池谷 まゆみ（元・ラジオニッポン）

① 形態として出現している思います。しかし、実際となる非常に問題は多く残っていると思います。

② 大だこ？ 凧じゃない。

③ ……

◇

来栖 琴子（日本BPW連合事務局長）

① 職場や政治の現実が少ない。

② 女性として意識が高まっていくと思います。うまく説明できないのですが、いつまでもあげたい、かざいたい。

③ 女性たちが、ずっと、そのことを強調されると、そのことを強調されると、そのことを強調されると

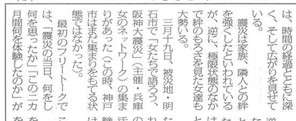
女性記者が語る戦後50年

第16回ジャーナリズムを語る会

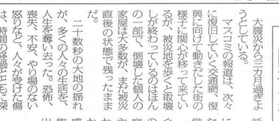
男社会に抵抗する精神

読者の発言を拾い上げる

毎日新聞東京労組などの主催で、「第16回ジャーナリズムを語る会」が三日、東京・千代田区の毎日新聞社・晴海ホールで開かれた。今回は阪神大震災をテーマに、ジャーナリズムの今後をも問われていることから、今回は阪神大震災（「女記者の戦後」参照）、また、「男社会に抵抗する精神」（「女記者の戦後」参照）、「ネットワークが力に」（「女記者の戦後」参照）、「阪神大震災が女にもたらしたもの」（「女記者の戦後」参照）の四つのテーマを設けて、パネルディスカッションが行われた。



女性記者が率直な意見を述べ合う


会場発言も活発

「男社会に抵抗する精神」では、「戦後五十年と社会部の花形記者」、「取材源との信頼関係」、「取材と家族」、「すきな仕事（職業）だから続けてこれた」、「男社会の中で女性として生きてきた」、「男と女の職場」などが、それぞれ、パネラーから提起された。

「戦後五十年と社会部の花形記者」では、「戦後五十年の歩みは、戦争体験者が、戦後、どう生きてきたかという問題でもある。戦争体験者の一人として、戦争を繰り返さないために、何ができるかを考えてきた。戦後の歩みは、戦争を繰り返さないための歩みでもあった。戦後五十年の今、戦争の記憶が薄れようとしている。戦争を繰り返さないための歩みを、どう、次の世代に引き継いでいくか、ということが、私たちの課題である」と、問題提起がなされた。

「取材と家族」では、「取材源との信頼関係」、「取材と家族」、「すきな仕事（職業）だから続けてこれた」、「男社会の中で女性として生きてきた」、「男と女の職場」などが、それぞれ、パネラーから提起された。

「男社会の中で女性として生きてきた」では、「男社会の中で、女性として、どう、自分を位置づけるか、ということが、問題になった。

アルツハイマーの妻を撮り続ける

「おてんとうさまがほしい」が映画化

地域、職場で上映しませんか

アルツハイマー病になった妻の姿を、看病の合間に16ミリのムービーカメラで追い続けた茨城県日立市の映画照明技師・渡辺生（しょう）さん（七）の記録が、『おてんとうさまが欲しい』という題で映画化され、三月三十日、東京・吉祥寺の武蔵野公会堂で試写会が開かれた。

フリーの照明技師として活躍する渡辺生さんと九歳年下の妻・トミ子さん。二人の間に子供はいない。仕事の関係で渡辺さんは東京に、トミ子さんは生れ育った日立市にと、永い間二重生活が続いたが、一九九〇年、トミ子さんに痴呆、徘徊の病状が現われ始めたのをきっかけに、渡辺さんは生活の基盤を日立市に移した。

トミ子さん（左）と渡辺さん。妻に対する渡辺さんの愛情がジワリと伝わってくる

「誰に相談していいのかわからず市の福祉課に相談に行ったり…痴呆症と診断されても順番待ちだから、すぐ入院というわけにもいかず、仕事場に連れていったが個人で介護するのには限界がある…」と語る渡辺さん。トミ子さんの姿をホームビデオで撮り始める。

九二年、トミ子さんは日立市の日立梅ヶ丘病院・老人性痴呆疾患センターに入院。毎日面会に行く中で、おむつの取り換え、食事や入浴と愛情を持って治療・看護を続ける職員の姿に感動した渡辺さんは「このような施設がもっと増えて欲しい」という思いがこみあげてきた。この思いをたげるために渡辺さんは撮影を16ミリカメラに替えた。

佐藤真監督（「阿賀に生きる」など）は「だんだんトミ子さんの病気が重くなり事実として厳しいが悲劇にはしたくなかった。介護する渡辺さんの美談にもしたくなかった。老人問題、アルツハイマー病を告発するものでもない。一人の男がどう妻と向きあって生きているかをボーッと観てもらいたい」と。

淡々とした映像の中に、若い通訳時代のはつらつとしたトミ子さんの写真等が織り込まれ、老い、痴呆、夫婦、生きることなど、さまざまなものを観る者に問いかけて来る。

同映画は、四月十五日からキネカ大森（☎03・3762・6000）で独占ロードショー上映をする。料金は、当日平四百円、前売千二百円（プレイガイドほか）。二枚以上まとまれば上映協力前売千円もある。申込みは上映委員会☎03・3394・3734。

35年間日本に滞在の女性ロシア人画家

ブブノワさんの作品展開催

16日～6月4日　町田市立国際版画美術館で

大正、昭和にかけ日本で三十五年間暮らしたロシアの女性画家、文学者のワルワーラ・ブブノワ（一八八六～一九八三年）の作品展が十六日から六月四日まで、東京町田市の町田市立国際版画美術館で開かれる。ブブノワさんの作品の本格的大量展示は初めて。

ブブノワさん（早大で教えているころ～1954年）

ブブノワさんは、帝政ロシア時代にペテルブルグに生まれ革命後の一九二三年（大11）来日、一九五八年（昭33）年まで滞日した。

文学、特に詩についての造詣が深く、長く早稲田大学のロシア文学科で教え、多くのロシア文学者たちを育てた。また、妹の小野アンナさんはヴァイオリニストで、戦前の日本の名のあるヴァイオリニストの大半がその弟子といわれるほど、多くの名演奏家を育てた。

「葬儀屋」挿絵原画（1934年）

ブブノワさんは本職の美術でも日本の美術界に多く影響を与えた。日本の版画は主に木版画によって発展したが、ブブノワさんは石版画で実験的な創作をつづけ、革命後のロシア美術の先端的芸術「ロシア構成主義」を日本に紹介。当時の進歩的な美術家たちに影響を与えた。

展示作品はこうした版画のほか、水彩画、パステル画、油彩画など約百九十点。ほかに、ブブノワさんの影響を受けた村山知義さんら日本の作家の作品八十点も、同時に展示される。

ブブノワさんの作品は、ロシアのプーシキン、モスクワ、トレチャコフ等の美術館の協力で集められたもの。

入場料…一般六百円（六十五歳以上三百円）、大高生四百円、小中生百円。問い合わせ…町田市立国際版画美術館☎0427・26・2771。

エンジョイスパイス

スパイス健康講座　▶166◀

四月からの『エンジョイ・スパイス』は、〝健康とスパイス〟がテーマです。

いままでは、香り付け、臭み消し、辛み付け、色付けというスパイスの持つ基本特性について、さまざまなエピソード、料理方法を直接的に紹介してきましたが、今回からはスパイスの持つもう一つの側面からのアプローチを試みます。スパイスの持つ食品機能、成分の働きから私たちの健康とのかかわりについて考えていきます。スパイスを使ったダイエット・メニュー、デザートも、ふんだんに用意しました。皆様の食と健康を考える上で参考になれば幸いです。＝編集部

カロチンにガン予防効果

パプリカは生ピーマンの74倍

料理に欠かせない調味料・スパイス。最近ではスパイス成分の生理、活性の働きを解明したり、私たちの健康に、どのように関与しているか調査する研究が盛んに行われています。このところ注目度ナンバー・ワンの、カロチン。中でも緑黄色野菜の色素として含まれる、β－カロチンの成分には、ガンを始め慢性疾患にかかる危険性を下げる効果があることが確認されています。

太陽光線や放射線、生体内反応で生じた有害な活性酸素などは、細胞膜や遺伝子を傷つけ、老化現象やガンを引き起こします。β－カロチンは、活性酸素を消す作用を持っています。生体内には、もともと免疫機能が備わっています。β－カロチンはガン細胞などの異種細胞を攻撃、防御する機能があるリンパ球を増大させ、免疫機能を高める働きがあるのです。

最近の研究によると、天然物に含まれるカロチンには、β－（ベーター）、α－（アルファー）、γ－（ガンマー）などいくつか種類があり、ガンに対する効果は、ガンの種類によって異なっていることがわかり、β－カロチンだけでなく、いろいろなカロチンを含む天然物が注目されています。

スパイスのパプリカは、カロチンを始めさまざまな栄養成分を多く含む緑黄色野菜のピーマンと同じ仲間。スパイスには、その赤い鮮やかな色と、わずか1・35g（小さじ約⅔）でよいということです。生のピーマン100gを食べるのは結構大変ですが、1・35gのパプリカなら、香りも味も殆どないので色々な料理に加えることができます。

このコーナーでは、健康上役に立つ話題と結びつけたスパイスの新しい楽しみ方を紹介します。スパイスについての質問も、どうぞお寄せ下さい。

（資料提供・ライオン家庭科学研究所／本文・武政三男）

フジテレビ木曜劇場

「輝く季節の中で」

大学病院を舞台に

医学生たちの青春を

二十日から始まる連続ドラマ・木曜劇場「輝く季節の中で」（10時～10時54分）は、医学生たちを主人公にした青春ドラマです。医学部、大学病院を舞台に話は展開されますが、単なる医学者のドラマではなく、愛、夢、挫折、裏切り、信頼、友情、死などを描きながら生命の尊さをうたいあげる青春ストーリーです。

医学部の六年生（最終学年）は、ポリ・クリと呼ばれる臨床実習で、学生五～六人でグループを組み、担当指導医の指示に従って実際の医療を学びます。

ドラマの核となるポリ・クリのグループを作る五人の学生（女三人、男二人）。中でも主人公格の藤谷果菜子を石田ひかりが一年半ぶりのTVドラマ出演で演じます。離島出身で事故で両親を失い、命の恩人、島でたった一人の医師である女医のようになりたいと医学生を志し、必死に勉強している、という役柄。

「ハートウオーミング」がテーマ

ほかの四人は、エリートの澤田俊介（保阪尚輝）、落ちこぼれかけている樋口慎一（中居正広）、才女・星野明美（篠原涼子）。そして元看護婦であり、現在教師の妻で医学生、ハードな生活をなんとかこなす水橋久美子に井森美幸。

さらに冷たく超然としているポリ・クリの教官に長塚京三。この異色の出演俳優を見ただけでも、何事かが起こると期待が持てるでしょう。

この春のフジテレビのドラマ・ラインナップのテーマは「ハートウォーミング」。〝優しさ〟のドラマです。

脚本は岡田英和。プロデュース、亀山千広、演出・木村達昭と「あすなろ白書」のコンビです。

出かけてみませんか

4月

▼すくえ／民族教育　被災朝鮮学校支援コンサート　12日㈬18時30分　南大塚ホール（JR大塚駅南口3分）　出演は新谷のり子（歌手）、鄭湖月（金剛山歌劇団歌手）、末永正博（ピアノ）、河俊泓（コムンゴ）ほか　3000円（収益は全額被災朝鮮学校に寄付）　主催…在日朝鮮人・人権セミナー☎03・3915・2264

▼GENKIバザール　16日㈰11時　せたがや婦人会館　雑貨、衣類、食料品ほか　主催…地球環境女性連絡会FAX03・3266・6534

▼映画とトーク『ジョイ・ラック・クラブ』　18日㈫13時　名古屋市女性会館ホール（地・東別院駅3分）　トークコーディネーター・北村明美（弁護士）　無料　先着350人　問合せ…同会館☎052・331・5288

▼眞壁廉「ファンタジックアートワールド展」　27日㈭まで　東京ガス横須賀ショールーム　コウモリとウシが合わさって「コモギュウ」など、まが不思議な幻想動・植物たちが織りなすファンタジック・ワールド　入場無料　問合せ…T3横須賀☎0468・26・3853

▼動物との語らい・竹田津実写真展　5月30日㈫まで10時～17時　※水・木曜日休館　絵本の樹美術館（山梨県大泉村、JR小海線・甲斐大泉駅7分）大分県生まれ。野生動物にあこがれて、北海道で獣医をしながら、エッセイ、写真を撮りつづける作者の50点余の写真を展示。瀬川康男「ふたり」絵本原画展、上野紀子「チコ」絵本原画展を同時開催。一般600円、中学生まで300円　問合せ…東京連絡事務所☎03・3437・9111（びすたーり内、月～金）

おいしい、390円。

おいしい。
時代にこびない本格ワインのおいしさが、たっぷり720mℓ。ヨーロッパの気軽なレストランで飲むハウスワインのおいしさ。これからは、あのおいしさが、日本の日常になります。

安い。
時代を先取りの390円。500円玉で、夫婦にワイン、お子さんに缶ジュースまで買えちゃうお得さです。

楽ちん。
時代に素直なスクリューキャップ。飲み残したら、冷蔵庫に入れて、またの日に。ワインのいいところは全部残して、とっつきにくいところは全部なくしちゃおう、というのが、つまりデリカ　メゾンなんですね。

良いワインは、サントリーから

デリカ　メゾン

（赤）・（白）・（ロゼ）各720mℓ

果実酒、アルコール分14%未満、価格は消費税込みの希望小売価格です。製造・販売／サントリー株式会社　飲酒は20歳を過ぎてから。